



裏で
冒涇の限りを
尽くして
鬼や子を
愛した俺らは
みんな地獄行

割りのいいバイトはないかと大学の友人知人らに聞きまわったところ、一人が「家庭教師はどうだ？稼げるぞお」とにんまり。

ただ、よくよく話を聞けば、相手は高校生でも男子のみという。

「はあ？プリチーなニとあんなことやこんなことできないのお？」とぶーたれる俺に「分かっているいなお前」と肩を抱いて囁いたことには。

「そりゃあ女子高生はかわいいが、厄介でもあるんだぞ？

俺の知り合いなんか、迫られたのを断ったらセクハラされた！って訴

えられて大学を退学させられたんだから。

その点、男子校生とは過ちが起りにくいし、年ごろの彼らは割りとぼうつとしていて、女子高生よりずる賢くないからな。

生意気で暴力的な野郎もいるだろうけど、家庭教師を頼むような家の息子はあるていど育ちがいいし、俺の勤めるところは富裕層むけだから、なおのこと反抗期真っ盛り糞餓鬼はいないって。

いやあ、それにお坊っちゃんの高校生は意外とかわいくてさあ。

年が二三才しかちがわなくても、彼らが目指す大学に通っているとなれば、盲目的に尊敬してくれるし、忠犬みたいに聞き分けもいいわけ。

親元を離れて独り暮らしをしているとなっちゃあ、かっこいい！ってもてやはして、先生みたいになりたい！って恥ずかしげもなく懂れて、

無邪氣に頼って懷いてくれるのよ。

これがおねえ、あざといぶりっ子女子高生より、無垢でちよっとおばかなペットみたいで狂おしいほど愛しくてさあ」

友人の熱弁を真に受けたわけではないが「富裕層むけ」の言葉と給料のよさに惹かれて、とりあえずお試しで働くことに。

結果、少々悔しいなれど、友人がいうとおり教え子のプリチーさにやられたもので。

やはり裕福な家で大切に育てられた子供は躰がなって礼儀正しいし、いい意味で世間知らずで純朴。

高校生だったころの俺より断然かわいげがあり、基本的に賢くて察しがいいから教えていても話していても苛つかない。

指導をすれば、真剣な眼差しをむけて律儀に返事をし、質問をするにしろ的確で分かりやすく、自力で問題が解けたら「先生、ありがとう！」と花が咲くように顔をほころばせる。

休憩中の雑談でも興味津々に耳をかたむけて、打てば響くように愛嬌のある反応をしてくれ、とくに大学の話をすると、絵本をせがむ幼子のように、ひたすら輝く瞳を向けてくるから映ゆいほど。

そりやあ子犬が尻尾ふってしがみつくように懷いてくれたら満更でないとはいえ、生まれてから十九年、あらためて気づかされた。俺は年下の男の子が好きなのだ。

いやいや、恋愛的性愛的にはない。

教え子と接してると、弟を溺愛する兄のような心境に至るのだ。

そのことをちらりと母親に話したら「そういえば、幼いころ弟がほし
いって泣いてたよ」と教えてもらった。

すっかり忘れて大学生になった今、その願いを叶えるような職にたま
たま就いたらしい。

天職ともいえるので、そりやあ教え子からは「頼れるお兄ちゃんみた
い!」「こんな兄ちゃんがほしかった!」とぞつこんなに慕われて大好評。
惜しみなく愛情を注ぎつつ、誠心誠意をこめて勉強を教えれば、教え
子はみんな成績アップを果たして親にも満足してもらえ「大学卒業し
たら、うちで働かないか?」と本社からスカウトもされたし。

なんて、いいことばかりではなかった。

初日の仕事を終え「あーあんな弟ほしいなー」と余韻に浸ってでれ
れしていたのが、いつの間にかスマホで、教え子と似た年ごろの男子

が犯されたり殺されたりする創作物を探しまくりに。

それらを読み漁りながら、ついさっきまで弟のように慈しんでいた教え子を創作物の登場人物と重ねて、犯して殺して無我夢中で自慰。翌朝、我にかえったときは、どん底まで自己嫌悪して死にたくなかったもので。

俺は極悪性犯罪者の予備軍なのか？と頭をかきむしり悶々としたとはいえ、家庭教師の仕事は休まず。

一応、十八才以上の成人の俺が、未成年に劣情を抱く糞野郎なのか、あらためて確かめたかったからだが、杞憂だったよう。

脳内で何回もぶち犯して飽きずに殺しつくした教え子を目の前にして、まったく心は揺らがず、わずかな邪念も抱かず、以前と変わらず弟の

ような存在と見なして、無償の愛を。

「学校帰りに変な男の人に声をかけられた」と相談されたなら、我ながらどの口がなれど「少年を餌食にする糞野郎を皆殺しにしたい！」と吠える始末。

その日は最後まで仲むつまじい兄弟のように交流し、帰るときには「寂しいなあ」と服の裾をつまんで惜しんでくれたのが、泣きたくなるほど愛らしく。

胸をときめかせながら「この前のことは一時の気の迷いだな！」とほっとしたのもつかの間、帰宅後は見事に先日のおりの流れに。

だれかに操られているようにスマホを操作し、画面に目を釘づけにしつつ、飢えた獣のように呼吸を乱して涎を垂らしっぱなしに、血がでて扱きつづけて。

前は衝動に駆られるまま、半ば意識をとばして自慰をしていたのが、今回、あらためて快感を噛みしめ、その破格ぶりに驚かされた。

ふだんの自慰とは比べ物にならず、経験のあるエッチよりはるかに上回る性的快楽と満足感。

弟のように愛しい教え子を辱しめ痛めつけるさまを想像すると、いくらでも大興奮して、精液が尽きても勃起はおさまらない。

二回目ともなれば、おまけにレイプされて首を絞められる教え子をおかずに性的快楽を心行くまで味わってしまったとなれば「こりやもういかん・・・」と絶望。

とりあえず次の家庭教師の仕事を休むことに。